

学校評価実施結果

1 学校目標

「学び合う力を育てる」

〔重点施策〕

- ①思いや考えを伝え合い共有することを通して、自分の考えを深める授業の充実
 - ・校内研修（複式学級における算数科の授業実践）を核として実施する。
 - ・話し合い活動による子ども主体の学習活動を推進する。
- ②主体的に「人・もの・出来事」にかかわることを通して、他者と協調・協働する心を育てる体験学習の充実
 - ・他校、地域との連携による交流学习、体験学習を実施する。
 - ・キャリア教育の視点(ふるさとを誇りに思う気持ち・つながる力)を取り入れた活動を推進する。
- ③豊かな心を耕すとともに、学び合うことの基となる言語能力の向上を図る読書活動の充実
 - ・図書（新聞）を活用した創作活動を推進する。
 - ・豊かな心とコミュニケーション能力の向上を図る多様な読書活動を実施する。

〔評価基準〕

- ①自分の考えを深める授業について
 - ・複式授業（間接指導時）において自他の考えを伝え合う場（話し合う場）を工夫している。
 - ・自他の考えを伝え合う活動を通して、自分の考えを振り返り深めている。
- ②他者と協調・協働する心を育てる体験学習について
 - ・主体的に「人・もの・出来事」にかかわり他者と協調・協働する多様な体験学習の場を企画・実施している。
 - ・他者と協調・協働する体験学習において、キャリア教育の視点から学んだことを振り返り伝え合っている。
- ③言語能力の向上を図る読書活動について
 - ・言語能力の向上を図る多様な読書活動並びに創作活動を実施している。
 - ・多様な読書活動並びに創作活動に主体的に取り組み、感想交流に意欲的に取り組んでいる。

2 自己評価、学校関係者評価（児童生徒・保護者アンケート）の実施・公表状況

- ① 5月22日、第1回地域学校連携協議会（学校関係者評価委員を兼務）を開き、学校経営方針並びに学校目標について説明した。
- ② 7月11日、参観日に保護者へ重点施策への取り組み状況を説明した。
- ③ 1学期末、1回目の教員・児童・保護者を対象とした学校評価アンケートを実施し、教職員間で課題及び課題解決のため重点的に取り組む項目を確認した。
- ④ 2学期初め、学校だよりを通して、保護者及び地域の全家庭に、1回目のアンケート結果の概要を公表するとともに、重点項目への取り組みに対する協力を依頼した。
- ⑤ 11月下旬、2回目の教員・児童・保護者を対象とした学校評価アンケートを実施し、教職員間で、1回目からの変容について確認した。
- ⑥ 12月6日、参観日に保護者へ2回目のアンケート結果の概要と1回目からの変容について説明した。
- ⑦ 12月6日、第2回地域学校連携協議会を開き、1回目と2回目のアンケート結果の概要について説明し、成果と課題についての意見集約をした。
- ⑧ 2月27日、参観日に保護者へ重点施策への取り組み状況について説明した。
- ⑨ 2月27日、第3回地域学校連携協議会を開き、自己評価結果を説明し、学校関係者評価を実施した。
- ⑩ 学校ホームページに、学校関係者評価の結果を掲載した。

3 自己評価、学校関係者評価の結果

（評価：A 十分達成した B 達成した C 達成できなかった D まったく達成できなかった）

項目	自己評価	学校関係者評価		
		児童・保護者アンケート	評価(ABCD)	
重点施策①	<p>○「伝え合う」活動を意識して取り入れることにより、児童が互いの考えを説明し合うことができた。また、振り返りをする中で自分の考えを確かなものにするのができた。</p> <p>○校内研修を核とした授業改善に取り組むことにより、間接指導時に児童が意欲的に自力解決に向かうことができた。</p>	<p>○「友達と協力して話し合いをしたり活動したりすること」に、全ての児童が肯定的評価、「複式の授業で自分たちで学習を進める時、自分の考えを友達に説明したり、友達に質問したりすること」に、殆どの児童が肯定的評価だった。</p> <p>○「複式の授業で児童が学習を進める時、自分の考えを友達に説明したり、友達に質問したりすること」や、「学校が児童の伝え合う力を育むための授業づくりの工夫をしていること」に、全ての保護者が肯定的評価、「友達と協力して話し合いをしたり活動したりすること」に、殆どの保護者が肯定的評価だった。</p>	<p>○保護者や地域の方の前でも、児童一人一人が、自信をもって堂々と発表することができている。</p> <p>○発表をする時の言葉の選び方や感想を話す際の着眼点が素晴らしく、児童から教えられることもあり、成長を感じることができた。</p> <p>○複式学級のメリットが最大限に生かされ、児童一人一人に着実に学力が身についている。</p>	B

重点 施策 ②	<ul style="list-style-type: none"> ○地域と連携し体験活動や他校との交流学习を多く取り入れることにより、他者と協調・協働する心を育てることができた。 ○体験活動や行事をキャリア教育の視点で振り返らせることにより、自己の成長や友達のよさに気づかせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「他の学校の友達と仲良くすること」に、全ての児童が肯定的評価だった。「地域の人と一緒に活動する時、進んで話しかけること」があまりできていないと考える児童が23%だったが、改善の兆しが見られた。 ○「他の学校の友達と仲良くすること」や「地域の人と一緒に活動する時に進んで話しかけること」、「学校が児童の学び合う力を育むために、他者と協調する体験活動や合同学習を設定し、内容が充実するよう工夫していること」に、全ての保護者が肯定的評価だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の特色を生かして多様な活動を実施することができている。 ○地域と連携した活動に継続して取り組みことにより、積極性が高まる等の変容が見られた。 ○体験活動を継続して行うことで、児童が達成感を得て、記憶に残ると思われる。 ○児童が意義を理解して体験学習に取り組むことで、活動がより充実している。 ○他校の児童と交流する機会が多く、児童が他者と協調・協働して活動するよい機会となっている。 	A
重点 施策 ③	<ul style="list-style-type: none"> ○児童や教職員、ボランティアによる読み聞かせ、ブックトークなど、様々な読書活動を実施することにより、児童の読書への意欲を喚起し、感想交流を深めることができた。 ○図書を活用した創作活動に取り組みさせたことにより、児童の言語能力が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「本の読み聞かせや紙芝居、本の紹介など読書活動が楽しい」に、全ての児童が肯定的評価だった。「読書をして分かったことを生活に生かしたり感想を他の人に伝えたりしている」に、殆どの児童が肯定的評価だった。 ○児童の読書活動の様子や感想交流の状況について、殆どの保護者が肯定的評価だった。「学校が伝え合う力を育むために、言語活動の工夫をしている」について、全ての保護者が肯定的評価だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書活動を通して文章力が身につき、発言する内容も向上している点が評価できる。 ○言語能力の向上につながる様々な読書活動を今後も充実させて欲しい。 	B
学校目標達成度評価				B

4 学校目標に係る成果

- 校内研修の研究授業において、事前調査の結果から児童の実態を把握し、個人差に応じた指導計画を立てたことにより、児童に問題把握場面で解決や方法の見通しをもたせることができ、自力解決への意欲を高めることができた。
- 里海・里山学習による体験活動では、地域ボランティアの方々や他校の友達と積極的に関わろうとする態度や意欲的に活動する姿が見られた。地域の方への感謝の気持ちを深める中で、自分が住んでいる地域を誇りに思う心情を高めることができた。
- 様々な読書活動を工夫することにより、児童の読書への関心を高め、読書の幅を広げることができた。俳句作りや新聞の活用に取り組むことにより、言語能力を高めることができた。感想交流や家庭と連携した「お茶の間読書」に取り組むことにより、児童が相手を意識した伝え方を工夫することができた。

5 学校目標に係る課題及び今後の改善方策

- 友達に自分の考えを説明し合うことはできるが、質問し合うことは、まだ十分にできていない。児童同士で意見や感想を交流できる能力を育成する必要がある。
- 事前指導で、活動のめあてや意義を更に意識させ、キャリア教育の視点に立った振り返りを、学年の実態に応じて充実させる必要がある。
- 図書を活用した創作活動に継続的に取り組み、更に児童の言語能力を向上させる必要がある。
- 小規模校の特性を生かした全学年での活動を実施し、発達の段階に応じた自他の考えを伝え合う力を向上させ、主体的に学び合う力を育成する必要がある。